

ピアノを弾こう! 教室訪問 PART 2 第8回

子どものレッスン、大人のレッスン、さて今回は?

幼児も大人も、レッスンは 一人1時間プラス5分

今回訪問したのは、兵庫・神戸市の木野村恵美先生のピアノ教室だ。一人1時間プラス5分のレッスンで十分な時間をとって教えるのが、木野村流のレッスン。1日4人までしか教えない木野村先生の教室は、1年先まで予約で埋まっている。

今月のピアノ教室 兵庫・神戸市
木野村恵美ピアノ教室



防音設計のヤマハ・アビテックス（フリーサイズ）を導入した自宅マンションでピアノ教室を主宰。月～金曜のレッスンは、年齢に関係なく一人1時間プラス5分（5分は交替時間）。午後3時から7時まで教える1日の生徒数は、4人までと決めている。最寄駅はJR神戸線「六甲道駅」、阪急神戸線「御影駅」より徒歩10分。問い合わせ先は、加古川市のオクダ楽器店 ☎079-424-2018

大くんのレッスンは、毎週水曜日の午後6時過ぎから。練習に熱が入ってくるとレッスン時間が延びることも多く、「このあひだは、夜8時近くまで弾いちゃったね」

さあ、レッスンしましょう!

今月の先生と生徒

木野村恵美先生

きのむら・えみ ●音大卒業後、一般企業を経てヤマハピアノ教室講師として兵庫・加古川市のオクダ楽器店にて稼働。現在は自宅で、幼稚園児から60代まで幅広い年齢層のピアノ指導を行い、ピアノコンクールの審査員なども務めている。PSTA西日本エリア講座スタッフ。

わたなべ だい
渡邊 大くん(中1)

3歳11カ月から木野村先生の教室へ。「家での練習は不規則」だけれど、できるだけ続けたいと思っている。「目立つのが嫌い」なので、学校の友達にはピアノを習っていることは話していないとか。中学では理科部に所属。



最近、駅メロにハマっています



鉄道マニアで、「将来の夢は鉄道関係の仕事」という大くん。駅メロにハマっていて、駅メロ楽譜集『鉄のバイエル』から数曲を弾いてくれた。

木野村先生のレッスン流儀

一人でもピアノが楽しめる、
音楽を楽しめる入り口への水先案内人



大くんが初めて自分から弾きたいとリクエストした曲は、ビル・エヴァンスの「ワルツ・フォー・デビー」。木野村先生がカホンで合わせる。

レッスン中にやってはいけない2つの約束事

この日のレッスンは、大くんが最近気に入っているという、駅メロの演奏から始まった。好きな曲で気分をアップさせたところで、グレード5級用の初見演奏や自由曲（カプースチンの練習曲、グラナドスの「詩人と夜うぐいす」）の演奏。NEWピアノスタディのテキストを終えている大くんは、月比の楽譜で連弾したり、ビル・エヴァンスの「ワルツ・フォー・デビー」を弾いたり、レッスンの1時間はあっという間に過ぎていく。

教え子の年代は幅広いが、どち

らかといえは幼児や小・中学生が中心だ。そんな子どもたちがレッスンを続けるかどうか迷う最初の壁は、10歳前後。次に中学受験、高校受験の時期にレッスンを中断してしまう子が多い。「せっかくピアノを習ったのだから、レッスンをやめてからも一人でピアノを楽しめるようになってほしい。最初に取り組むNEWピアノスタディのテキストは1冊あたり6～9カ月程度で終了するのが目安なのですが、私は1年以上、時間をかけてとりわけ丁寧に教えるようにしています。譜読みなどの基礎さえ身につけてい

『月刊ピアノ』の連弾アレンジも活用。ドラマ『コノドリ』のテーマ「Baby, God Bless You」を終え、ガーシュウインの「ラプソディー・イン・ブルー」を練習中。



↑またがるように座って叩くカホン。

れば、いろいろな事情でピアノ教室をやめても、自立して音楽を楽しめるようになると思うからです」生徒が練習不足と感じたら、CDを聴いたり、次回レッスンへの練習を一緒にすることも。コンクール出場は希望者だけだが、グレード挑戦と1年半に一度のピアノ発表会は全員参加だ。目的意識や刺激は重要なポイントだからだ。「ピア

ノを、音楽を楽しむための入り口は人それぞれ。その子に合った楽しみ方を見つけることが、個人レッスンの醍醐味です」普段はソフトな笑顔でやさしい木野村先生だが、ある約束事を破ると、レッスン後のおやつはお預けになる。一つは、レッスン中にくびを3回以上したら×。もう一つは忘れ物をしない、だそうだ。